

TNのうち、4年間を通じて最も原因として多かったものは、クルミ、カシューナッツ、マカダミアナッツ、ピスタチオ、アーモンドの順でした。
また、TNによる患児は、TN以外の食物による患児に比較して入院率が有意に高かった（P=0.016）と述べられています13）。

【検査】

TNアレルギーにおける発症予防手段は確立しておらず、その初発は未就学児に多く、さらに初めての摂取で重篤な誘発症状を呈することから、重症な湿疹や鶏卵アレルギーなどのハイリスク乳児において、初発で予期せぬ重篤な誘発症状の発現を避けるためにTNおよびそのコンポーネントによる特異的IgE検査を考慮することが指摘されています13）。

すべてのPNアレルギー患者がナッツ類も摂取できないわけではありません。
PNアレルギーの患児が、1種類以上のナッツアレルギーを合併している可能性は25～50%程度とされています14）。
下表の通り、分類が異なるため一律に除去指導するのではなく個別に診断することが必要です。

科	種
ウルシ科	カシューナッツ、ピスタチオ
クルミ科	クルミ、ペカンナッツ
バラ科	アーモンド
カバノキ科	ハシバミ（ヘーゼルナッツ）
サガリバナ科	ブラジルナッツ
アオギリ科	カカオ
マメ科	ピーナッツ、大豆

保険適用になっているピーナッツ／ナッツ類のアレルゲンコンポーネント

- ・ f423 Ara h 2（ピーナッツ由来）
- ・ f441 Jug r 1（クルミ由来）
- ・ f443 Ana o 3（カシューナッツ由来）

参考文献

1. Lomas JM, Jarvinen KM. Managing nut-induced anaphylaxis: challenges and solutions. *J Asthma Allergy* 2015; 8: 115-23.
2. Kusari A, Han A, Eichenfield L. Recent advances in understanding and preventing peanut and tree nut hypersensitivity. *F1000Research* 2018, 7(F1000 Faculty Rev):1716
3. Weinberger T, Sicherer S. Current perspectives on tree nut allergy: a review. *J Asthma Allergy* 2018; 11: 41-51.
4. Gupta R, Warren CM, Smith BW, et al. Prevalence and severity of food allergies among US adults. *JAMA Network Open* 2019; 2(1): e185630.
5. McWilliam VL, Perrett KP, Dang T, Peters RL. Prevalence and natural history of tree nut allergy. *Ann Allergy Asthma Immunol* 2020; 124: 466-72.
6. Midun E, Radulovic S, Brough H, et al. Recent advances in the management of nut allergy. *WAO J* (2021) 14: 100491.
7. Brough HA, Gorgey R, Radulovic S, et al. Latest developments in the management of nut allergies. *Curr Treat Options Allergy* 2021; 8: 97-110.
8. Sicherer SH, Burks AW, Sampson HA. Clinical features of acute allergic reactions to peanut and tree nuts in children. *Pediatrics* 1998; 102(1).
9. Borres MP, Sato S, Ebisawa M. Recent advances in diagnosing and managing nut allergies with focus on hazelnuts, walnuts, and cashew nuts. *WAO J* (2022) 15:100641.
10. 令和3年度食物アレルギーに関する食品表示に関する調査研究事業報告書。即時型食物アレルギーによる健康被害に関する

- 全国実態調査（研究代表者海老澤元宏）。
11. 平成27年度食物アレルギーに関する食品表示に関する調査研究事業報告書。即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査（研究代表者海老澤元宏）。
 12. 平成30年度食物アレルギーに関する食品表示に関する調査研究事業報告書。即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査（研究代表者海老澤元宏）。
 13. 北村勝誠、伊藤友弥、伊藤浩明。愛知県の小児アナフィラキシー全数調査における木の実類の増加について。日小ア 2022; 36: 141-7.
 14. 症例を通して学ぶ年代別食物アレルギーのすべて 改定2版

[2] KMLインフォメーション 9月～11月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

- 2022年 9月 8日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2022-0908.pdf>
- 2022年 9月16日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2022-0916.pdf>
- 2022年 9月22日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2022-0922.pdf>
- 2022年 9月29日 検査一時受託中止のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2022-0929.pdf>
- 2022年10月29日 インフルエンザ〈HI〉測定株変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2022-1029.pdf>
- 2022年11月 1日 α-ラクトアルブミン受託再開のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2022-1101.pdf>

■ □ = = = = =

✓

最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。
 編集／発行 <https://www.kml-net.co.jp/>
 株式会社 京浜予防医学研究所
 〒216-0042 神奈川県川崎市宮前区南野川 3-22-1

= = = = = □ ■